

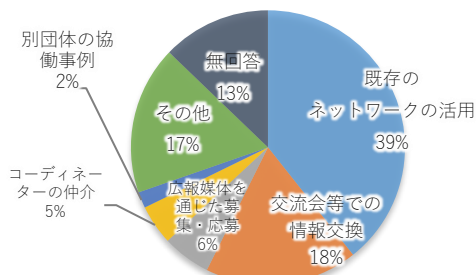
④ 地域協働プロジェクト

目標 多様性を力に変える地域をつくる

地域によって、その成り立ち、魅力、課題などは異なっており、よりよい地域づくりを進めていくためには、それぞれの状況に応じた協働のあり方を考えていく必要があります。その地域に住んでいる人だけではなく、地域に根差した市民団体や企業などの多様な主体が関わり、それぞれの知見や強みなどを活かすことで、地域ならではの魅力づくりや課題解決に向けた多くのチャレンジが生まれる環境をつくりまします。

現状

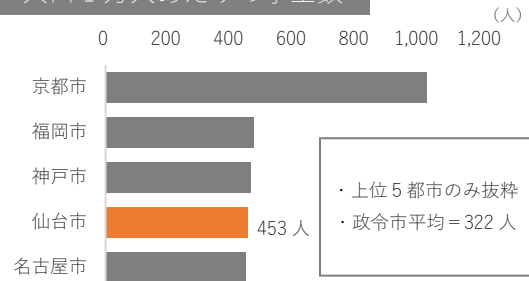
協働のきっかけ



出典：平成 28 年度仙台市市民活動団体等実態・意向等調査報告書

- ◆ ある団体が、他の団体と協働するきっかけとしては、既存のネットワークや交流会が大きな比率を占めています。
- ◆ 多様な主体による協働を進めるためには、協働のきっかけとなる機会をつくる必要があります。

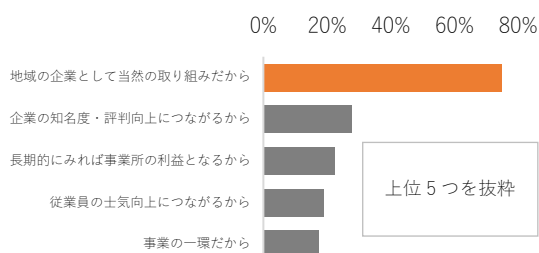
人口 1 万人あたりの学生数



出典：文部科学省「学校基本調査」(令和元年度)

- ◆ 他政令市と比較すると、仙台市は人口に対する学生(大学生及び大学院生の合計)の割合が 4 番目に多くなっています。
- ◆ 教育機関の知見や、学生が持つ豊かな発想を地域づくりに活かす視点が求められます。

企業が地域活動に取り組む理由



出典：仙台市「中小企業の活性化に向けた新たな条例に関するアンケート調査報告書」(平成 26 年度)

- ◆ 中小企業へのアンケートでは、企業が地域活動に取り組む理由として、「地域の企業として当然の取り組みだから」が最も多い回答でした。
- ◆ 企業の力を地域に活かすための仕組みづくりが重要です。

若者の視点を取り入れる仕組み



- ◆ 仙台の未来を担う若い世代はまちづくりに高い意欲を持っており、基本計画の策定や政策形成にも積極的に参画しています。
- ◆ 若者の発想を、地域づくりに活かしていく取り組みが、より一層重要になっています。

実施の方向性

01 多様な協働が生まれる基盤をつくる

- ◆ 公共空間の活用や地域課題の可視化・共有を進めることなどを通じて、興味や関心のある誰もが地域づくりに関わりやすい環境をつくりまします。
- ◆ 地域課題の解決に向けた取り組みを効率化・加速化させるため、テクノロジーを活用するとともに、公民連携による取り組みを推進しまします。

02 多様な主体の力を地域に活かす

- ◆ 生活に必要な移動手段の確保をはじめとした地域での暮らしの改善に向けて、住民や企業、NPO、市民団体など多様な主体が協働しやすい仕組みをつくりまします。
- ◆ 若者が多様な主体とともにまちづくりを考え、行動するための協働の機会をつくるとともに、大学をはじめとした教育機関や学生のアイデア・ノウハウを地域づくりに活かすことができる仕組みづくりを行います。

03 地域内外の交流を生み出す

- ◆ 地域独自の資源や生活文化、西部中山間地域などにおける豊かな自然や観光資源を活かして地域内外の交流を生み出す環境づくりを進めまします。
- ◆ 住民のみならず誰もが気軽に訪れて、イベントの開催や地域の困りごとの解決に取り組むことができる自由でオープンな交流の場づくりを進めまします。

